

演劇活性化のために 『演劇対話 芝居やるべし!』

八戸ポータルミュージアム コーディネーター 柳沢拓哉



夏の喧騒を終えたはっちシアター2を会場に、10月4日に11名の演劇人と40名超の高校演劇部を中心にした市民が集い、はっちナイトサロンミーティング「演劇対話〜芝居やるべし〜」が開催された。

市内演劇人の皆さんからは、豊島重之氏、椋谷伸夫氏、長谷川直行氏、蛭名義一氏、田中勉氏、しもさき博之氏、外館暢子氏、竹井由美子氏、中道寿也氏、田中稔氏、平葎健悦氏といった方々にご出演頂いた。急なお願ひに関わらず、御協力いただき当日は白熱した議論の応酬となった。

オープン以来、はっちでは演劇での使用は少ない。はっち自体に起因する問題もあるが、同時に現状市内では小劇場演劇が激減している。かつての「演劇の盛んな街・八戸」が確かにそこにあっただけに落差は大きい。当誌2006年

8月号で五十嵐隆氏が危惧していた状況は更に進んでいるのだ。しかし、これだけ多くの人材、

換言するなら「演劇関係資本」を抱えたまちは全国的に決して多くない。諸先輩の力をもう一度借りて、八戸を元気にして、そして若い方々につないでいきたい。主催者側の企画意図の一端である。

当日の議論から少しだけご紹介を。

「80年代90年代前半に八戸で演劇から面白い動きが生まれたのは、パラボラ、スペースベンという2つの魅力的なスペースがあったから。その魅力とは利用者側の自由度の高さの保障と、「場」を守るディレクターの存在の2点だ。」
「小演劇が減少したことで高校生が同世代以外の演劇に触れる機会が少ない。高校演劇にとっても望ましい状況では無い。若い人間たちが見られる公演と場を増やさなければならぬ。」

「はっちにはシアター以外にレジデンス、工房があり演劇を「つくりこむ」ことが出来る。また公演場所もキッチンやリビング等が面白い場合もある。ハコとして最大活用しながら、ハコに捉われない使い方がもっとできるはずだ。」
議論の中から、多くの提言を、はっちに届けてもらった。「盛岡を参考に演劇祭的取組みを」というお話もあった。これからの事業に参考にしていきたい。中央では「(仮称)劇場法」制定の動きに象徴

されるように舞台芸術を取り巻く環境も大きく変わろうとしている。

幸か不幸か、いや、やはり幸福だと思いが、私は現在八戸ポータルミュージアムで働いている。それぞれがそれぞれの場所で、演劇のまち・八戸を、この時代に応じた形でつくっていくこと。演劇人の皆さん、高校演劇関係者の皆さんの多大な御協力にいま出来ることを誠実にやっていきたい。

そして、今後も開かれた議論の場、プラットホームをつくり続けていきたい。



最後に、当日の進行役としてこれだけのメンバーをまとめていただいた平葎健悦さんと、参加者の皆さんに心から御礼を申し上げます。ありがとうございました！次回もよろしく！「芝居やるべし！」

Friday Amusement Negative Shop

○FANS予定 926回～929回 タイトル:アース・イーターvol.3 / 脚本:加藤健太郎 / 構成・出演:田中勉
※公演日はホームページでご確認ください。または join-fans-info.tujb@ml.freeml.com に空メールを送ると、公演情報案内のメーリングリストに登録できます。

演劇空間
スペースベン

■八戸市柏崎1-11-8
TEL. 0178-43-9876
FAX. 050-3588-8350
携帯. 080-6025-0990

※特別番組以外 金曜日は午後7時30分～、土曜日は午後2時～
料金/一般前売400円 高校生以下100円(当日100円増)
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールアドレスで確認下さい。 [HP] <http://spaceben.com/> [Eメール] owner@spaceben.com

11月号好評発売中!

●今月のインタビュー

BeFM代表取締役専務 放送局長

塚原隆市さん(57歳)に聞く

読む楽しさ 読物満載

毎月ご愛読ありがとうございます

発行所/うみねこ出版社
八戸市六日町10 いわくとくバルコ3F
TEL/FAX 0178-44-6636

- 今月のテーマエッセイ 参った参った
- 終活……………長谷川直行
 - 「参ったニヤー」……………西塚景啓
 - 腕章は何の証?……………沼沼館澄
 - システムに脱帽……………類家澄子
 - 宵の酔い……………古館光
 - 花粉アレルギー!……………花沢光孝

